

【様式】

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名（ 三重県立津東高等学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○ 変化の大きいこれからの社会で、「自分らしくたくましく『未来を切り拓く力』(対話力・追究力・創造力・発信力)」を育成する学校 ○ 地域の進学校として「向学立志」の精神を大切にし、不断の進化と切磋琢磨に努め、地域の期待に応え続ける学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○ 学習や学校行事、部活動等に積極的、主体的に取り組み、高い目標を持って自らの良さを磨き、「自分らしくたくましく『未来を切り拓く力』(対話力・追究力・創造力・発信力)」を身につけた生徒 ○ 学ぶことの大切さと喜びを会得し、豊かな人生と社会を築こうとする志を持つ生徒
	ありたい 教職員像	○ 基本的な生活習慣、確固とした基礎学力を土台に、「自分らしくたくましく『未来を切り拓く力』(対話力・追究力・創造力・発信力)」を身につけられるよう、生徒に「本気の伴走」ができる教職員。 ○ 自らを磨くため高い目標を持ち、切磋琢磨に努め、不断に進化し続けようと努力し続ける教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒> できれば国公立大学に進学したいと希望しており、それを実現できるよう、学力を付けられるわかりやすい授業を望んでいる。 <保護者> 子どもをできれば国公立大学に進学させたいと希望しており、それを実現するための授業力・進路指導力を期待している。 <地域・県民> 地域に貢献でき、学力に見合う豊かな人格と心を持つ生徒の育成、地域社会を担い、社会貢献する生徒の育成を期待している。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<保護者・P T A> 確かな学力と進路保障、豊かな情緒や人格形成をして欲しい。 <地域> 地域の活性化に寄与し、信頼できる学校となって欲しい。 <進学先（大学等）> 明確な目的意識と「基礎学力」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を育んで欲しい。 <学習塾等学習産業> (中学生対象の学習塾) 高校卒業後の進路状況などの情報提供をして欲しい。 (高校生対象の学習塾) 大学入試に向けた連携をして欲しい。	<保護者・P T A> 家庭での学習環境整備と学校教育活動に理解や協力をして欲しい。 <地域> 学校教育活動に理解や協力をして欲しい。 <進学先（大学等）> 生徒の進路希望実現のための情報提供をして欲しい。 <学習塾等学習産業> (中学生対象の学習塾) 中学生保護者へ本校教育活動の情報提供をして欲しい。 (高校生対象の学習塾) 大学入試関連の情報提供をして欲しい。
(3) 前年度の学校関係者評価等	○ 社会に出たとき答えが一つでないことにどう対応するか。「自分で考える力」を養うことが重要。外部と協働することで教員にとっても発見があるのではないかな。 ○ 地域を含めた外部の大人との関わりは大切。話を聞くだけでなく、コミュニケーションを取る機会をしっかりと作ってほしい。 ○ 校是「向学立志」を常に先生方が意識していることが大切。 ○ 探究活動をもっと発信した方がよい。	

(4) 現状と課題	教育活動	○ 生徒の学校生活は落ち着いており、学習や学校行事、部活動等、熱心に取り組み、満足度も高い。生徒は素直で真面目である一方、学校以外の世界をイメージすることが弱く、目標設定に物足りなさを感じさせることもある。 ○ 生徒一人ひとりへのきめ細やかで懇切丁寧な指導により、学習への意欲も高まり、国公立大学への進学者数も安定している。加えて、令和4年度より実施の新学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」を実現し、新たに始めた探究活動『自分らしく』プロジェクトを整備、充実させることで、生徒の学びへの意欲と「自走性」を一層向上させる必要がある。
	学校運営等	○ 生徒一人ひとりに対するきめ細やかで懇切丁寧な指導は継続的に実施できているが、生徒の学力向上に資する取組や改善策等に関しての組織的な動きにやや課題がある。組織的な進学指導、キャリア教育を強化することで、生徒の学ぶ意欲と志を今以上に育てる必要がある。 ○ 生徒の学ぶ意欲と志を今以上に育てるため、「社会に開かれた教育課程」を実現し探究活動をより充実させる必要がある。そのために校内の組織の整備を進めながら、外部との連携を強化し、組織としてのコーディネート力、ファシリテーション能力を向上させる必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	○ 生徒の学力（学力の三要素「知識・技能」「思考力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）を向上させるため、アクティブラーニング型授業に取り組み、主体的・対話的で深い学びを実現する。 ○ 探究活動「自分らしくプロジェクト」を充実、発展させ、答えが一つでない問いを考える機会を増やす。そのために外部との連携を一層強化し、新学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」を実現させる。 ○ 日々の学習指導、探究活動、学校行事、部活動等、全ての教育活動をキャリア教育として捉え、3年間で「自分らしくたくましく『未来を切り拓く力』（対話力・追究力・創造力・発信力）を身に付けさせる。
学校運営等	○ 探究活動「自分らしくプロジェクト」を充実、発展させ、答えが一つでない問いを考える機会を増やす。そのための校内の仕組みを整備するとともに、3年間のキャリア教育指導計画を整備、発展させる。また、「社会に開かれた教育課程」を実現するために、外部との連携を強化し、組織としてのコーディネート力を強化する。 ○ 生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、授業改善に組織的に取り組む。職員研修を充実させ、常に学び続ける教員集団を目指す。 ○ 学年、分掌で情報共有を密にする仕組みを再構築する。PDCAサイクルを回し、不断に進化する組織を構築する。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	備考
「自分らしくたくましく『未来を切り拓く力』の育成 (キャリア教育の充実)	○ 昨年度から始めた探究活動「自分らしくプロジェクト」を2年次まで実施し、「答えが一つでない問い」を考える機会を充実させるとともに、「本気の大人」と出会うことで「自己の在り方生き方」を深く考える機会を増やす。 ○ 生徒に様々な機会・方法で進路状況を提供し、視野を広げるとともに進路意識の向上を図り、志を実現するため高い目標を持って最後まで最大限努力する姿勢を育む。 【活動指標】 ・進路ガイダンスや進路講演会の実施 年間 1・2年生3回以上 3年生5回以上 ・保護者対象進路説明の実施 各学年1回以上	◎
	○ 基本的な生活習慣を確立させ、提出物の期限と時間を守る事の大切さを理解させ、行動が徹底できるよう指導する。 【活動指標】	※

(2) 学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	備考
「自分らしくたくましく『未来を切り拓く力』の育成と学習指導の充実	○ 組織力の向上のため、学年、分掌、教科の縦横の連携を一層強化する。 【活動指標】 ・進路懇談会(学年と進路指導部の連携会議)の実施 年間 1・2年 5回以上、3年 10回以上 ○ 学校ビジョン委員会を定期的に開催し、生徒に付けたい力やスクールポリシーを含む学校のビジョンを検討し、形にする。 ○ 学力向上推進委員会を定期的に開催し、生徒の学力向上と教員の授業力向上のための方策を議論する。それをベースとして、探究活動の充実を含めた3年間のキャリア教育計画(進路指導の流れ)を構築する。 ○ 教員の指導力向上に向け、入試研究会・教科研修会に積極的に参加する。	◎※
「社会に開かれた教育課程」の実現	○ 「社会に開かれた教育課程」を実現し、生徒が「答えが一つでない問い」を考えるため、「本気の大人」の「本気の伴走」ができる体制の構築を進める。外部との連携を強化し、組織としてのコーディネート力を強化する。 【活動指標】 ・学校ビジョン委員会または学力向上推進委員会での議論 年間 10 回以上 ○ 学校関係者評価委員会やPTA役員会で、本校教育への意見をいただくとともに、協働に向けて努力する。 【活動指標】 ・学校関係者評価委員会 年間 3 回実施 ○ HPや報道等での情報発信 【活動指標】 ・HP更新 月 1 回以上	◎※ ※ ※
働きやすい職場づくり	○ チームとして仕事をする体制づくりを進め、業務の効率化を図る。 ○ 校内体制を見直し、業務の効率化と持続可能性を高める。 【活動指標】 ・定時退校日を月 1 回設定し、設定した日の定時に退校できた職員の割合 80%以上。 ・部活動休養日を週 1 回設定し、予定どおり休養日を実施できた部活動の割合 100%。 ・放課後に開催され 60 分以内に終了する会議の割合 70%以上。 【成果指標】 ・年 360 時間を超える時間外労働者数0人 ・月 45 時間を超える時間外労働者の延べ数0人 ・一人あたりの月平均時間外労働 30 時間以下 ・一人あたりの年間休暇取得日数 20 日以上	◎※